

笑顔かがやく光っ子

みんなで育てる光っ子

# 学校便り

第329号  
平成26年7月1日

練馬区立光が丘第八小学校  
校長 鈴木 隆志

## まけないぞう

校長 鈴木 隆志

私が「ゾウさん」を大好きだということは、光っ子たちはみんな知っています。ゾウとサイの話もたびたびしています。「〇〇しなサイ」で動くのではなく、「〇〇するゾウ」のゾウさんになろうということです。校長室前のベンチにいるゾウさんのぬいぐるみは、光っ子たちの意欲や態度、興味・関心、自主性、積極性、行動力、根気、創意・工夫等を、ずっと応援し続けています。

新しいゾウさんが仲間入りをしました。「まけないぞう」という男の子・女の子の2頭のゾウさんです。「まけないぞう」は、東日本大震災の被災者の方々が1本のタオルをゾウの形に縫い合わせて製作しているものです。この活動は、1995年の阪神・淡路大震災の時に始まっているものです。神戸の被災地NGO協働センターが呼びかけて、東日本大震災の被災者の方々にも広まったのです。製作者の言葉です。「仮設住宅で何も考えられなくなり、毎日ボーッとしていた頃、『まけないぞう』作りに出会いました。作るたびにいろいろな顔の表情ができあがり、気持ちも明るくなりました。」被災者の皆さんは、今もずっと「まけないぞう」の気持ちをもち続けていらっしゃるのでしょうか。

光っ子たちにも、「まけないぞう」の強い思いをもち続けてほしいと願っています。つらいこと、苦しいこと、うまくいかないことに涙を流す子もいるでしょう。失敗を恐れ、周りの目を気にして、あと一歩が踏み出せない子もいるでしょう。初めから諦めて、チャレンジしない子もいるでしょう。楽を求め努力をしない子、流されてしまう子もいるかもしれません。自分をごまかし、嘘をつく子もいるかもしれません。友達との関係に悩みを抱え、解決方法が分からない子もいるかもしれません。叱られることに慣れていなくて、くじけたりいじけたりしてしまう子もいるのでしょうか。こんなときこそ、「まけないぞう」の登場です。たくましくしなやかな心をもつ光っ子でいてほしいと願います。

今年度になって、光っ子たちの欠席ゼロの日が続いています。4月11日（金）、5月8日（木）、9日（金）、22日（木）、27日（火）、28日（水）、29日（木）、30日（金）、6月3日（火）、4日（水）、10日（火）、11日（水）、19日（木）、30日（月）と、14回もありました。過去3年間で5回しかなかったのに、なんと素晴らしいことでしょうか！ 光っ子たちのたくましき一つの表れです。

「人生」と言うと大げさですが、日常の毎日の生活の中でも、病気をすることやけがをすることもあります。耐えなければならないこともあります。悩みや痛みがあれば、失敗や挫折もあります。身体のたくましきさももちろんですが、心のたくましきさも絶対に必要です。「まけないぞう」という、タフな心、折れない心（レジリエンス）を光っ子たちに育てていきたいと考えます。

「まけないぞう」の思いには、光っ子たち自身の前向きな心情・態度が表れてきます。ですから、言い換えれば「自己肯定感」の高まりと言えます。私たち大人の側から見れば、「まけないぞう」の思いを育てるために、光っ子たちの心を鍛えあげていかなければならないのです。心を鍛えるのは、一朝一夕にできることではありません。時間をかけてじっくりと取り組んでいきましょう。